

言葉づかいも体験から学ぶ

- 「強い口調」は感情の産物である（大人も「クソッ」「ちきしょう！」とかいうこともある）
 - 子どもにはまだ内言ができない。すぐに言葉を出してしまう。
 - 子どもも一時的な感情の表現としてそういう言葉を発することもあがるが、ずっとは続かない。しばらくして落ち着いていくもの。あまり大袈裟に受け止めない方がいい。
 - 手が出ない代わりに言葉が衝動を止める役割も。
- 言葉は大人の「意味づけ」で変わるもの。
 - スルーしたほうがいい言葉
 - 「いたずら」は叱るほど続けてしまう
- 関わりを求める（挨拶代わりに近い）言葉

わいわいになっていくと・・・



経験を言葉で意味づける

- ことばを獲得することは、自分が住んでいる世界に**入る**ことと同時に、その世界を自分の中に**取り入れる**ことになる。
- ことばを介して「世界を知り、意味づけ、未来を作っていく」と言える。（道端の花「きれいだね」）
- 大人は世界の橋渡し役。**感じ、気づき、分かる**という認識の過程で、**着目するもの、方向づけ、意味づけ、感じ方**などに影響を与えている。
- 子ども同士の関係も、お互いに経験の意味づけ合いになっている。（例：劇などの経験を共有するような機会を作るなど）（動画の例：お片付けができた意味）